

第Ⅱ章 調査内容

4. 協議会の運営補助等

対象地域の行政、観光関係団体等で構成された地域協議会の運営補助を行った。

(1) 地域協議会

令和4年度 第1回 北方領土隣接地域（根室地域）観光促進協議会	
日時	令和4年6月13日（水）14:00～16:00
会場	中標津町総合文化会館（WEB会議併用）
内容	1. 開会 2. 議事 (1) 根室特集WEBサイト（案）について (2) その他（協議会構成員からの情報提供） (3) 全体を通しての質疑 (4) アドバイザーから 3. 閉会

●出席者（順不同）

所属
根室市
別海町
中標津町
標津町
羅臼町
北海道 根室振興局
知床ねむろ観光連盟
根室市観光協会
一般社団法人なかしべつ観光協会
南知床標津町観光協会
一般社団法人知床羅臼町観光協会
全日本空輸株式会社 釧路支店

所属
日本航空株式会社 釧路支店
北海道旅客鉄道株式会社
阿寒バス株式会社
根室交通株式会社
北海道運輸局 釧路運輸支局
北海道開発局 釧路開発建設部
札幌国際大学 教授
国土交通省北海道局
国土交通省北海道開発局
株式会社JTBC 北海道事業部
アソビュー株式会社

アドバイザーから（札幌国際大学 教授）

アソビューは予約サイト。予約するためには情報が必要。皆さんが日頃から手にしている旅行者目線の情報をきちんと載せることが旅行者のためにプラスになる。多くの関連事業者の意見を吸い上げて、WEBサイトに提供することで、それを購入に結びつけ、現地で消費するといいいサイクルになっていくと思う。今は各地域が競い合っている。多くの方に訪れてもらい、リピーターになってもらい、適切な情報を発信してもらうことが重要だ。そして、旅行者には、満足をどれだけ提供できるか。二次交通やネイチャーガイド人材の充実をはかり、満足を提供する、満足を超える感動を与えるというレベルを目指していかなければならない。

令和4年度 第2回 北方領土隣接地域（根室地域）観光促進協議会	
日 時	令和5年3月7日（火）10:00～11:15
会 場	中標津町総合文化会館（WEB会議併用）
内 容	1. 開会 2. 議事 （1）令和4年度根室地域への旅行者誘客調査の結果について （2）その他 3. 閉会

●出席者（順不同）

所 属
根室市
別海町
中標津町
羅臼町
北海道 根室振興局
知床ねむろ観光連盟
根室市観光協会
一般社団法人なかしべつ観光協会
南知床標津町観光協会
一般社団法人知床羅臼町観光協会
知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイ

所 属
全日本空輸株式会社 釧路支店
日本航空株式会社 釧路支店
北海道旅客鉄道株式会社
阿寒バス株式会社
根室交通株式会社
北海道運輸局 釧路運輸支局
北海道開発局 釧路開発建設部
札幌国際大学 教授
国土交通省北海道局
国土交通省北海道開発局
株式会社JTB 北海道事業部

アドバイザーによる総括（札幌国際大学 教授）

調査結果から導き出された情報を活かし、地域の周遊観光、誘客促進にいかにつなげていくかが大切だ。コロナが猛威を振るった2年間に、地域と行政が連携して、どうすれば地域が活性化するのかを検証できたことは大きい。今後日本が観光立国から観光先進国を目指して進もうとしている中で、地域は連携を強化し、より能動的に取り組むことが求められる。

観光の軸足は、旅行消費額を増やすことである。そのためには旅行者が満足してくれる付加価値の提供が必要だ。造成商品の体験企画の料金が4万円という設定があったが、決して高いものではない。価値のあるものに対して旅行者は理解する。地域はそのために努力し、収益を確保する。そのことが持続可能な観光につながっていくことになる。

また、北海道ではアドベンチャートラベルの機運も高まっている。大きなアドバンテージがある根室地域の自然、アクティビティを活かす取組も今後視野に入れてほしい。地域の潜在力の高さをアピールする取組に期待する。

第Ⅱ章 調査内容

5. 今後の方策のとりまとめ

本業務の調査結果から把握できた効果、課題を整理し、対象地域における周遊観光と誘客促進に向けた今後の方策を検討し、とりまとめを行った。

5. 今後の方策のとりまとめ

地域の価値をどのように高めていくか —— 調査業務から把握できたこと ——

本業務は、根室地域の魅力的な観光コンテンツや、観光に利用できる二次交通の情報を一元的に発信する特集ページを軸に展開した。特集ページによる情報発信とアンケート調査による検証、インフルエンサーの招請と情報発信から、根室地域の雄大な自然を軸にしたアクティビティについての関心の高さがあらためて明らかになった。圧倒的な開放感と心地よさ、野生動物との出会いや豊富な食資源、そして国内最東端という特別感は、根室地域の独自性のあるコンテンツとして発信力の高さを実感した。

また、今年度の根室地域の観光商品の予約・購入結果として、「自然体験のエコツアー」や、「日帰りバスツアー」等へのニーズが増加したことが特徴の一つだった。新型コロナウイルス感染症によって、人々がライフスタイルを見直していく中、旅行への意識や価値観も変化していることや、今や世界的な旅行トレンドとして注目されている、サステナブルな取組への意識の高まりを反映しているものとする。

公共交通のアンケート調査では、道外居住者の利用率が高いことがわかったが、冬季間の運転への抵抗を持つ道内居住者もいることも含めて、地域の周遊観光企画との関わり方が重要だ。今年度、新しいコンテンツとして「バードウォッチングタクシー」が造成されたが、これを例に、様々な切り口での展開に可能性を感じた。

地域連携に活路を —— 誘客促進に向けての課題から ——

根室地域には、雄大で類稀な自然や、個性豊かなアクティビティが数多くあるが、たとえば「シマエナガが見られる」、「クルーズでシャチがみられる」等、単体のコンテンツで誘客につなげていくことは容易ではない。旅行者に満足感を提供するため、それぞれの観光コンテンツを繋げ、ストーリー性のある周遊観光の提案をしていくことが重要である。

公共交通については、「時間を気にせず自由に移動できるから」、「荷物の運搬が楽だから」という自動車（マイカー、レンタカー、オートバイ）を利用する理由を受け止め、「便数や路線が増えれば」、「移動時間が短くなれば」という公共交通に対する期待を、地域の観光の魅力づくりにもどのように結びつけていくことができるかが大切なポイントであり、特に道外からの来訪者にとっては、土地勘が乏しいため、細かな情報提供が不可欠である。

戦略的で創造的な取組へ —— 根室地域のアプローチの方向性 ——

今回の調査業務を通して、根室地域の魅力をより高めるために、各地に点在する観光資源を点から線そして面へと広げられるよう地域全体の特色を活かした情報発信を実施した。情報発信による誘客効果や公共交通の利用可能性などの有効性については確認することができたが、さらに観光客に地域全体を周遊してもらうためには、今ある観光コンテンツをどのように磨き上げて、見せていくかが重要である。

北海道では今、アドベンチャートラベルの機運が高まる中、自然体験を軸にした滞在型・分散型観光の取組など、圏域や季節の枠を超えた観光推進が期待されている。

アドベンチャートラベルがテーマとする、自然を舞台にアクティビティを楽しみ、地域の方々と交流を通して地域文化を楽しむ観光は、何も欧米だけを対象にしたものではない。今回の調査結果では、地元の人を楽しむようなレストランやスイーツのお店が知りたいなど、地域に没入して旅を楽しみたいというニーズも多々見られた。その視点を多面的に捉え、アドベンチャートラベルのムーブメントに重ね合わせることで、さらにこの地域の魅力を観光客に伝え、地域の活性化につながる方策の一つとなりうると考える。

そのためには、一つ一つの資源の魅力や地域ならではのストーリーを見出し、旅を演出することができる、ローカルオペレーターが存在が不可欠である。現在、知床ねむろ観光連盟が中心となって取組を進めており、今後1市4町がさらに連携し、受入体制の構築を図っていくことが重要である。

また、受入れにあたっては、ガイド人材をどのように育成するかが課題だが、最初は道内各地の通訳案内士や、アウトドアガイド等と連携し、それらのナレッジを地域に浸透させることだと考える。

「もはや見て廻ることだけが観光ではない」と言われて久しい。他地域との差別化を図り、優位性を確保するために、今ある観光コンテンツの魅力をより伝えるような取組が必要であり、そのことが地域の持続可能な観光につながるものと考えます。

今後、アドベンチャートラベルの視点も活かしつつ、地域資源の魅力を最大化する取組に期待したい。

以上

第Ⅲ章 スケジュール

スケジュール

	根室地域の観光及び二次交通に関する一元的な情報発信	特集ページの閲覧促進のための情報発信	特集ページによる情報発信の有効性の検証及び公共交通の利用状況の調査	協議会の運営補助等
5月	素材収集			
6月	特集ページ案の検討・協議 制作			6/13 北方領土隣接地域観光促進協議会<第1回> ●業務内容の共有
7月	7/13 特集ページ公開			
8月		SNSによる広告配信 (7/15-8/31) チラシ配付		
9月			WEBアンケート調査 公共交通利用者アンケート調査	
10月				
11月				
12月				
1月		SNSによる広告配信 (1/6-1/31)		
2月		インフルエンサーSNS発信 (2/5~) インフルエンサー招請 (2/1-2/3)		
3月	業務まとめ			3/7 北方領土隣接地域観光促進協議会<第2回> ●業務内容報告・総括